

特集 「私の大きな失敗、小さな失敗」

飛行機に乗り遅れる？

関東支部 No.740 渡辺 亜雄

当時、私は一年に2～3回豪州へ出張していました。

その日の出張目的は私の会社が豪州に所有する炭鉱を訪問してくださる(いずれその石炭を買ってくださるであろう)大切なお客様をシドニー空港に待ち受け、ホテルまでご案内し、また夕食を共にして、炭鉱へご案内することでした。

その為にはお客様よりひとつ早い21:00成田発の便に乗り、先にシドニーに到着している必要がありました。

当時は慣れもあり時間ギリギリに東京駅へ向かいました。ちょうどタイミング良く(実は悪く)成田エクスプレス(NEXT)がホームに入ってきました。

私が「トン」とその電車に乗ったところ即扉が閉まり発車しました。その瞬間は「待ち時間ゼロだ、やった！」などと叫びました。

ところが、ところがです。なんとその電車は成田空港ではなく横浜に向かっているではないですか。

“NEXT”ですから次の停車駅は「横浜」とのこと、頭からは血が引き顔は真っ青です。横浜に着いて駅員に尋ねると次の上り成田行きは一時間後とのこと。私が目指す“Qantas”便には物理的に間に合いません。

成田エクスプレスより早い電車は勿論ない訳で、咄嗟にタクシーを思いつきました。

駅を出てタクシー乗り場に駆けつけ、燃料が足りないなどの理由で3台に断られはしたものの、ようやく4台目に乗り込みました。運転手には事情を話し、出来る限りのスピードで走ることをお願いし、あとは運を天に任せました。当時、千葉県津田沼に住んでいましたので高速道路上で津田沼を通過した時点で時間によっ

てはその日の飛行機を諦めて家に帰るか、それともそのまま成田に向かうかを判断することにしました。

結果は出発15分前のギリギリに空港カウンターに到着、何とか目的の飛行機に搭乗することができました。受付嬢と飛行機まで猛ダッシュしたことは言うまでもありません。

機上の人になり飛行機が飛び立った時、全身から力が抜けていく自分を今でもハッキリ覚えています。

シドニー空港ではお客様に本『事件』のことはおくびにも出さずニコニコとお出迎えし、会食を共にしました。そのお陰で後日35,000トン(約1億円)の注文もいただきました。

横浜でタクシーに乗るときは金銭のことなど考えもしませんでした。35,000円の代償はかなり堪えました。

南の会の皆さんは決してそのような軽率なことなさらないでしょうが旅慣れた方ほど十分に余裕をもってお出かけ、又お帰りください。

<Route 66>

ローマ地下鉄でスリに遭う

関東支部 No.60 渡辺 義郎

海外旅行でスリに遭う、あるいは盗難に遭う経験は結構多くの方が経験しているのではないのでしょうか。私の場合もローマ地下鉄でカードをすられました。これがパスポート、多額の現金、さらには怪我をするなどとなれば一大事ですが、結果的に損害がなかったので「小さな失敗」と言う事になると思います。

今年の5月～6月にかけて会員4家族の8人(他に会員外が6人で合計14人)で地中海クルーズに出かけました。この内、私を含め2名が盗難に遭いました。比率としては大きいと思います。クルーズの手配をした代理店の方の話では、昨年と同じコースでは80名の団体で1

0%の8件の盗難があったとのことでした。

ヨーロッパは、歴史的な建造物、美術館・博物館が多く観光には絶好ですが、悩みはすり、盗難の多さです。盗む方の技もなかなかのもので、これに加えて安全な日本からの観光客の油断と、パスポートにしる現金にしる金目のものを多く持っているなど、特に日本人観光客は狙われます。この煩わしさが、最近のユーロ高と共にヨーロッパ旅行の欠点です。

私もセキュリティ・グッズは一つでなく、移動中はチョッキ型の貴重品入れに現金・パスポートを入れ、航空券、トラベラーズ・チェックなどの細長い物は胴巻き型の貴重品入れを使用しました。さらにホテルに着いた後の市内観光にはズボンの中に隠しポケットを着用しました。

クルーズ船に乗る前の5月25日ローマ市内観光を家内と二人連れで楽しんでおりました。地下鉄のレプブリカ駅で降り、近くの教会を見ながらスペイン広場まで歩き、「ローマの休日」のスペイン階段を見て、さらにボポロ広場を歩いてナボナ広場まで歩きます。ローマは既に夏で気温も高く歩くには大変ですが、ローマ市内は地下鉄の路線が少なく、バスは不慣れで乗れないこともあり、ひたすら歩け歩けです。欧米の大勢の観光客も同じように歩いています。この段階では安全を疑わせる様な雰囲気はありません。

さて、すられたのは地下鉄の中です。歩き疲れて午後5時頃、テルミニ駅にたどり着きました。ラッシュアワーで帰宅する人が大勢います。テルミニ駅は大きな駅でA線、B線が交差しており目的のホームまで二人でうろうろしておりました。ここでもう目を付けられたのでしよう。入ってきた電車になだれ込むように乗り、入り口近くに立っていました。一駅行かないうちに前に立っている人が身振り、バッグが空いていると言います。下を見るとバックのチャックが開いています。それでもすられたことに気が付かず「あぁ開いているな」と思っただけです。すると隣に立っている男の子がしきりに自分の手首を示します。思わず自分の腕を上げ手首を

見ます。ここでやっと何か取られたと気づき、瞬間的にバックの中の財布がないことがわかりました。この通勤時に一人で居る10歳くらいの少年がくることは明白です。手を挙げさせて脇が空いたところを探ろうとしたようです。勿論大人の仲間が周辺にいます。ところが財布の中にはお金は入っていないのです。宿を出る時に現金は隠しポケットに入れておきました。あるのはクレジットカードだけです。そのことを思い出して騒がずに、カードを差し止める必要がありますので2駅先のコロッセオ駅で降りました。盗難時の連絡先を手帳に記録してしまっていたので、そこに電話しようと思いました。駅構内の公衆電話に行くと、驚くことに電話の前に日本語でカード盗難連絡先が掲示されています。それだけ盗難が日常茶飯になっているのでしよう。

結局、その連絡先は役に立ちませんでした。カード会社共通の連絡先のように日本語のコンピュータ音声でカード番号、有効期限を入れさせます。ところが最後にカード裏面に記載された一連の数字の下3桁が必要です。この数字はインターネットなどでカードを使う時に要求されたことがあります。普通必要ないので記録していませんでした。

次にカード会社の案内にあったロ - マ支店に電話しましたが、営業時間外とのアナウンスが流れるだけでした。最後に日本出発時にメモしたカード会社の盗難時受付電話に掛けました。800番通話で最初の通話料以外は無料で、場所は日本であるらしく、きわめて事務的に聞いてきます。氏名、住所、電話番号です。意外なことにカード番号、有効期限などは聞かない。必要と思えば手帳にメモしてあった番号は不要でした。カードを盗まれなくても手帳を盗まれた場合を考え番号を漢数字で入れてありましたが必要ありませんでした。こうして手続きが終わり即時にカードは無効となりましたが、困ったことには2枚持参したカードの内、盗まれたのがどちらか判らなかつたことです。宿に帰れば残りのカードがありますが、その場では判らず結局2枚とも無効にしました。これ以降、クルー

ズ船でも家内が持参したカードに頼ることとなりました。帰国してから調べたところ不正利用はされていませんでした。1時間以内に停止したことで使用する時間が無かったか、あるいは署名が漢字で真似が出来なかったか、不明ですがともかく被害はありませんでした。

これにひきかえクルーズの旅は安全の面では数段優れています。客室には金庫があり、パスポートなどの貴重品はそこに入れておくことが出来ます。金庫はカード開閉式で、そのカードを持ち歩けば、誰かが部屋に入っても取られる心配はありません。各地の港での観光は一日分のお金だけを持てば良いので盗られても被害は少なく気が楽です。クルーズは船がホテルで寝ている間に次の観光地に着くので、船中の色々な楽しみと共に効率的に観光でき、すっかり気に入りました。今回の地中海クルーズは、出港&帰港地はローマ（チベタベッキア港）で、ナポリ、ベニス、ドブロブニク（クロアチア）、メッシーナ、バルセロナ、カンヌ、リボルノに寄港する12泊13日のクルーズでした。ちなみにクルーズ代金は43.8万円（チップなど諸費用を含む2人分）、飛行機代は香港廻りの格安チケットで2人分で15.9万円（燃料サーチャージ、空港税などを含む）でした。



クルーズ船 Carnival Liberty（ベニスにて）

話は変わり旅行保険をどうするかです。何もないと保険料が惜しいし、何かあれば掛けなかったことが悔やまれる、と私はいつも迷います。今回はクルーズの前後合わせて24日間でしたが、インターネットの比較サイトから探してもっとも安い保険を掛けていきました。結果的には保険の世話になることはありませんでした。

だが、船中のサウナで滑って痣になるくらい打ったこと（頭を打たなくて幸い）、シチリアのメッシーナに寄港中にアメリカの方が船の前の道路で交通事故に遭い亡くなったことなど、まかり間違えば自分も大事になることもありました。やはりカード付帯保険を含めて保険を考える必要があるように感じました。